※令和４年度以降入学生用

学校番号	208

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	（学）数学応用 演習Ⅱ	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書							
副教材等	三訂版 ベーシックスタイル　数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・この科目は問題集を活用し，大学入試で必要となる知識・技能を身に着けることが目的です。
1・2 年次の数学の授業の中では扱えなかったが，大学入試においては定石となる問題を多く扱い，問題を解く力を養います。

2　学習の到達目標

難易度の高い問題を自分の力で解き進める力をつけることを目的とする。

(1)　複雑な計算問題であっても、惑わされることなく論理的に一つ一つ計算を進めていくことができる知識や技能を養う。

(2)　問題文を読み，どの単元の問題なのか，どのようなパターンの解き方があるのか判断し、数学的に表現・処理したりする力を身に付けるようにする。

(3)　見たことのない問題であっても本質を見抜き，学んだパターンを活かし、主体的に粘り強く課題解決に取り組む力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・問題を解く際に必要な公式やパターンを覚えている。 ・式変形や計算を着実に行い，進めることができる。	・例題で学んだパターンや技術を演習問題で活用できる。 ・問題文を読んで「何が」わからない条件で「何を」求めたいことなのか明確に理解することができる。 ・解答を論理的な構造がわかりやすいように記述できる。	・自発的に問題を解き進めることができる。 ・問題を解くまでの過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1.数と式 2.2次関数 3.図形と計量 4.データの分析	1.数と式 2. 2次関数 3. 図形と計量 4. データの分析	a.的確に展開や因数分解ができる。 a.２次関数の軸や頂点をもとめることができる。 a.三角比の相互関係や値を求めることができる。 b.定数や変数を意識しながら問題に取り組むことができる。 b.複数の単元が混ざり合った問題を解くことができる。 c.現実の事象を数学的に置き換えて考察することができる。 c.自分の表現で論理的な答案を作ることができる。	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	取組態度 レポート 振り返り用紙 パフォーマンス課題
	5.場合の数と確率 6.図形の性質 7.整数の性質	5. 場合の数と確率 6. 図形の性質 7. 整数の性質	a.順列・組合せの計算を理解し，求めることができる。 a.数える対象をしっかりと判断ができる。 a.図形にからむ定理や公式を適用することができる。 a.整式を自由に変形することができる。 b.定数や変数を意識しながら問題に取り組むことができる。 b.複数の単元が混ざり合った問題を解くことができる。 c.現実の事象を数学的に置き換えて考察することができる。 c.自分の表現で論理的な答案を作ることができる。	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	取組態度 レポート 振り返り用紙 パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

2学期	8.式と証明　9.複素数と方程式　10.図形と方程式	8. 式と証明 9. 複素数と方程式 10.図形と方程式	a.複素数がからんだ計算をすることができる。 a. 図形を方程式を使って表現できる。 a.等式を証明する方法を理解している。 b.定数や変数を意識しながら問題に取り組むことができる。 b.複数の単元が混ざり合った問題を解くことができる。 b.必要性･十分性を意識しながら解答を作ることができる。 c.現実の事象を数学的に置き換えて考察することができる。 c.自分の表現で論理的な答案を作ることができる。	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	取組態度 レポート 振り返り用紙 パフォーマンス課題
	11.三角関数　12.指数関数と対数関数　13.微分法と積分法	11. 三角関数 12. 指数関数と対数関数 13. 微分法と積分法	a.三角関数の相互関係を覚えている。 a. 指数法則や対数の性質を覚えている。 a.多項式の微分・積分ができる。 b.定数や変数を意識しながら問題に取り組むことができる。 b.複数の単元が混ざり合った問題を解くことができる。 b.三角関数のグラフの形や単位円と方程式・不等式の関係を理解できる。 b.指数・対数関数のグラフの形と方程式・不等式の関係を理解できる。 c.現実の事象を数学的に置き換えて考察することができる。 c.自分の表現で論理的な答案を作ることができる。	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	取組態度 レポート 振り返り用紙 パフォーマンス課題

※令和４年度以降入学生用

3学期	14. 数列 15. 統計的な推測 16. ベクトル	14. 数列 15. 統計的な推測 16. ベクトル	a.基本的な数列の一般項を求めることができる。 a.基礎的な問題に対して期待値・分散・標準偏差を求めることができる。 a.ベクトルの演算をすることができる。 b.定数や変数を意識しながら問題に取り組むことができる。 b.複数の単元が混ざり合った問題を解くことができる。 b.ベクトルを利用して図形を表現することができる。 b.数学的帰納法の考え方を理解できる。 c.現実の事象を数学的に置き換えて考察することができる。 c.自分の表現で論理的な答案を作ることができる。	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	発問評価 ノート確認 課題プリント 定期考査	取組態度 レポート 振り返り用紙 パフォーマンス課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度